インストールガイド

Arcserve[®] Replication/High Availability r16.5

arcserve®

法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve により随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserve の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserve が知的財産権を有する 機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserve ソフトウェアの使用について、 Arcserve とユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii) ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書 を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセン スを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的 な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただし Arcserve のすべての著作権表示および その説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンス が完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンス が終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を 含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損 失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損 害かを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任を負いま せん。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場 合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び(2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2017 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved.サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve[®] Replication
- Arcserve[®] High Availability(HA)
- Arcserve[®] Assured Recovery[®]
- Arcserve[®] Content Distribution

第1章: Arcserve RHA ドキュメント

Arcserve Replication/High Availabilityドキュメントには、すべてのメジャーリリースお よびサービス パックについての特定のガイドとリリースノートが含まれています。ド キュメントにアクセスするには、以下のリンクをクリックします。

- Arcserve RHA r16.5 リリースノート
- Arcserve RHA r16.5 マニュアル選択メニュー

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

https://www.arcserve.com/support

Arcserve のサポート:

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに 直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース(KB)ドキュメント にアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関 連KB技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることが できます。
- 弊社のライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポートチームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。 ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバルユーザコミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、 質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

製品ドキュメントに関するフィードバックの提供

Arcserve 製品ドキュメントに関してコメントまたは質問がある場合は、<u>こちら</u>までお 問い合わせください。

コンテンツ

第1章: Arcserve RHAドキュメント	4
	. I des
ました: Arcserve Replication/High Availability のコンホーイ. よび展開	2523
レプリケーションおよびハイ アベイラビリティのコンポーネント	10
コントロール サービス	
エンジン	12
管理センター	13
PowerShell	14
Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA	
Arcserve RHA 展開	
第2章: Arcserve RHA コンポーネントの要件と環境設定	
コントロール サービスの要件	
エンジンの要件	21
管理センターの要件	22
PowerShellの要件	23
第3章: Arcserve RHA のインストール、アップグレード、アンイトール	ンス 25
Windows Installer の登録	
Arcserve RHA の初回インストール	27
コンポーネント インストール ワークフロー	
Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のインストール	
インストールの前提条件	
Microsoft Windows Server 2012 の考慮事項	31
Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のインストール	32
製品のアップグレード	33
段階的なアップグレード	35
Arcserve RHA コントロール サービスのインストール	
コントロール サービスのインストールに関する考慮事項	
標準処理用のコントロールサービスのインストール	
コントロール サービス役 割 切り替 え用の2 つのコントロール サービスのインストー	-ル 41
CLIを使用したコントロールサービスのインストール	43
Arcserve RHA エンジンをインストールする方法	45
インストール ファイル Setup.exe を使 用したエンジンのインストール	46
シナリオ作 成 ウィザードを使 用したエンジンのインストール	48

リモート インストーラを使用したエンジンのインストール	50
CLIを使用したエンジンのインストール	53
管理センターおよびマネージャのインストールとオープン	55
Arcserve RHA PowerShell のインストール	56
Arcserve RHA のアンインストール	57
Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のアンインストール	58
CAVSSSoftProv エラーのトラブルシューティング	. 59
RHA エンジン検証の問題のトラブルシューティング	60
リモート インストーラ使用時の検証エラーのトラブルシューティング	61
第4章: IIS 7.0/7.5 における IIS 6.0 管理互換のインストール	63
第5章: SSL 自己署名証明書のインストール	. 65
第6章:期限切れ SSL 証明書の更新	. 69
第 <u>7章: 64 ビット QS_で,32 ビット_Qracle をサポート するために必</u>	
要な Oracle クライアントのインストール	.71
キーワード	73

第1章: Arcserve Replication/High Availability のコン ポーネント および展開

この章 では、Arcserve Replication/High Availability コンポーネントの概要について 説明します。また、これらのコンポーネントを Microsoft Windows プラットフォーム上 に効果的に展開するガイドラインを示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

レプリケーションおよびハイ アベイラビリティのコンポーネント	
Arcserve RHA 展開	

レプリケーションおよびハイ アベイラビリティのコンポーネ ント

Arcserve RHA は以下のコンポーネントから構成されます。

- コントロールサービス
- エンジン
- 管理センター 概要ページ、マネージャ、およびレポートセンターの3つのコンポーネントで構成されます。
- PowerShell
- Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA

コントロールサービス

「コントロールサービス」は、レプリケーションおよびハイ アベイラビリティの単 ー 制御 ポイントとして機能します。これには、既存のシナリオの全 データセットが格納され ています。コントロールサービスは、エンジンおよびマネージャの両方と通信します。 シナリオの作成、設定、監視、および実行など、シナリオに関連するすべてのタス クはコントロールサービスによって管理されます。

コントロールサービスは、マネージャから受け取ったリクエストを処理し、特定のコマンドに変換してエンジンに渡します。次に、最新のデータとイベントをエンジンから受け取り、シナリオのステータスに関する情報と統計データをマネージャに送信します。

コントロール サービスは、ユーザの認証と許可も行います。また、レポート処理とストレージに関して中心的な役割を果たします。ユーザは、コントロール サービスによって蓄積される情報と統計データを、概要ページ、マネージャ、レポートセンター、および PowerShell で表示できます。

シナリオファイルはすべて、コントロールサービスが実行されるサーバ上に保存され ます。コントロールサービスが停止しても、シナリオの機能は影響を受けません。た だし、シナリオのステータスに関する情報を受信するには、コントロールサービスが アクティブになっている必要があります。最良のパフォーマンスを得るには、コント ロールサービスをスタンドアロンホストにインストールします。それができない場合 は、コントロールサービスをマスタサーバまたはレプリカサーバのいずれかにインス トールできます。ただし、サーバが停止している場合は、コントロールサービスとの 接続が失われ、シナリオが管理不能になります。

個別のシナリオごとに Arcserve RHA コントロールサービスを保護する場合があります。詳細については、「Arcserve RHA管理者ガイド」の「コントロールサービスの保護」を参照してください。

エンジン

「エンジン」は、シナリオの開始前に実行しておく必要があるサービスです。エンジン は、シナリオに参加するサーバすべてにインストールされます。ここでのサーバとは、 マスタ(ソース)およびレプリカ(ターゲット)の両方を指します。各エンジンは、レプリ ケーションおよびハイアベイラビリティの両シナリオにおいて、マスタとレプリカの両方の 機能をサポートします。また、複数のシナリオに関係する事や、シナリオごとに異な る役割を果たすことができます。エンジンは、ホストごとにローカルにインストールす るか、またはリモートインストーラを使用して一度に複数のホストにインストールす ることができ、必要に応じてシナリオの作成時にインストールできます。

管理センター

「管理センター」は、以下の3つのコンポーネントで構成されます。 いずれのコン ポーネントも、手動でインストールする必要はありません。

- 概要ページ レプリケーションおよびハイアベイラビリティのシナリオのステータス に関する統計情報の概要です。
- マネージャ-シナリオの作成、設定、管理、およびモニタに使用するユーザインターフェースです。このGUIアプリケーションは、概要ページのシナリオ管理] リンクをクリックすると表示されます。

: 📫 🗀 🔠 🕒 🗖	ũ r n fi f	U և OO	1 🖸 1-1 🤃	-		
🔒 Scenario View	Snapshot View	💑 Remote Ir	staller Monitor	- 👲 Host Mainter	nance Monitor	
Scenario view					→ #	× 🕛 Properties
🕂 🤀 Scenarios					[Replica 172.16.233.159 Properties
Scenar	io	State	Product	Server	Mode	B Host Connection
🗆 😧 FullSystem	Conr	necting I	IA/AR	FullSystem	Online	Beplication
Hosts	Changed	Sent Data	Sent Files	Received Rece	ived In spool	🛛 🖳 Spool
🖻 💥 172.16.233.	155					Becovery
- 🗏 172.16.2	33.15					B Scheduled Tasks
E 👂 FullSystem 1	Runn	ning [DR/AR	FullSystem	Online	Event Notification
Hosts	Changed	Sent Data	Sent Files	Received Rece	ived In spool	Reports
E 💿 172.16.233.	158 289.02 Mi	B 0.00 Bytes	1	•	• 0.00 Byti	
- <u>172.16.2</u>	33.1 J 220.77 Mi	В	•	U.UU Bytes	1 101.26 M	
🖻 🌐 Pattys Scenario	20					
Scenar	io	State	Product	Server	Mode	
🗆 📑 FullSystem 2	Editi	ng H	-IA	FullSystem	Online	
Hosts	Changed	Sent Data	Sent Files	Received Rece	ived In spool	
⊡ 50 172.16.233.	158					
- 🚍 172.16.2	233.1					
🖻 🧊 ScenarioGrp_Ja	iya					
Scenar	io	State	Product	Server	Mode	
E 👂 FullSystem_J	aya Runr	ning [DR	FullSystem	Online	
Hosts	Changed	Sent Data	Sent Files	Received Rece	ived In spool	
⊡ 50172.16.233.1	158 103.60 Mi	B U.UU Bytes	1	•	· U.UU Byti	
4					•	🛅 Root Directories 🅘 Properties 🛄 Statistics
Events						
ID	Sequenc⊽ Seve	erity	Host/S	cenario	Time	Event
SR03024	42 🕺 Si	ignificant	📃 172.	16.233.159	🙆 12/6	2009 8:59:33 PM Replica 172.16.233.159 is ready for Manual Integrity Testing
IR00343	41 🕺 Inf	fo	📃 172.	16.233.159	🝅 12/6/	/2009 8:59:27 PM Replica 172.16.233.159 suspended for Integrity testing
SR00104	40 🕺 Si	ignificant	📃 172.	16.233.159	별 12/6	/2009 8:58:38 PM Replication to replica 172.16.233.159 resumed
IM00405	39 🕺 Inf	fo	📑 FullS	ystem 1	🙂 12/6/	2009 8:58:37 PM Posting Assured Recovery report created at '12/6/2009 20:58:37' to Reports
SR00392	37 🕺 Si	ignificant	📃 172.	16.233.159	🙂 12/6	/2009 8:58:37 PM FullSystem Integrity Testing on replica 172.16.233.159 I is finished
IR00276	36 🕺 Inf	fo	172.1	6.233.159	🙂 12/6/	/2009 8:58:35 PM Stopping Integrity Testing
Events Scenario Valid	ation Results					

レポート センター - すべての既存レポート情報、およびシナリオ別の使用可能 レポートに関する情報を収集するユーザインターフェースです。これらのレポートを保存する場所、および表示する期間や保存する期間をレポートセンタで 指定できます。

PowerShell

マネージャの GUI を使用してレプリケーション プロセスを管理しない場合、代わり に PowerShell を使用することができます。PowerShell は、以前のバージョンで提供 されていた CLI の機能を拡張し、より使いやすくしたものです。また、レプリケーショ ンおよび HA の両方の処理がサポートされています。

PowerShell は、レプリケーション シナリオの設定、レプリケーション プロセスの制御お よびモニタを可能にするコマンド ライン シェルおよびスクリプト環境です。PowerShell で管理されるすべてのシナリオは、マネージャで管理されるシナリオと同様に表示さ れ、機能します。これらのシナリオは同じデフォルトの保存場所である「INSTALL_ DIR/ws_scenarios」に自動的に保存されます。

この PowerShell は標準の Windows PowerShell™をベースにし、豊富な組み込み コマンド セットを備え、一貫性のあるインターフェースを提供します。PowerShell コ ンポーネントによって、スナップインと呼ばれるシナリオ関連コマンドが多数追加さ れ、シナリオ管理がさらに容易になります。

Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA

Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA には、仮想ディスクリソース プラグイン、およびクラスタ内のすべてのノードにインストールされる軽量インターフェースが含まれます。

Microsoft クラスタ環境には High Availability が組み込まれていますが、それでも 共有ストレージが単一障害点となる可能性があります。Arcserve RHA はクラスタ のストレージを保護し、オンプレミスまたはオフプレミスのディスクリソースへデータをレ プリケートすることができます。

Arcserve RHA 展開

Arcserve RHA コンポーネントの展開方法は、企業のIT ネットワークの規模と、レプ リケーションおよびハイアベイラビリティの需要の程度によって異なります。ただし、 レプリケーションおよびハイアベイラビリティ環境を設計し、各種コンポーネントを Windows プラットフォーム上に展開する際には、所定のガイドラインに従う必要が あります。以下のセクションでは、Arcserve RHA コンポーネントの効果的な展開方 法について説明します。

以下の図に、Arcserve RHA コンポーネントの一般的な展開構成を示します。

Management Center



■ Arcserve RHA コントロール サービス

コントロール サービスは、すべてのマスタ サーバとスイッチ オーバ先 のレプリカ サーバに接続できる必要があります。コントロール サービスは、シナリオ内のス イッチオーバー レプリカでないサーバに直接接続されている必要はありません。

コントロール サービスは別 のサーバにインストールすることをお勧めします。 ハイ アベイラビリティ(HA) シナリオで作 業している場 合 は、 マスタ ホストとレプリカ ホ ストのいずれにもコントロール サービスをインストールしないでください。

コントロール サービスは、スタンドアロンのワークステーションにインストールできま す。ただし、このワークステーションが無効またはオフラインの状態にある場合、 シナリオのモニタまたは管理を行うことができないことに注意してください。 Arcserve RHA エンジン

エンジンは、定義済みのシナリオに関係するそれぞれのマスタサーバとレプリカ サーバにインストールする必要があります。

- Arcserve RHA 管理センター
 このコンポーネントは、コントロール サービスにネット ワーク接続されているすべてのワークステーションから、ブラウザで起動できます。
- Arcserve RHA PowerShell

このコンポーネントは、Windows PowerShell がインストールされていて、かつコン トロールサービスへネットワーク接続されているどのワークステーションからでも起 動できます。

第2章: Arcserve RHA コンポーネントの要件と環境設 定

この章では、Arcserve RHA の各コンポーネントのソフトウェアと環境設定の要件について説明します。

注: サポートしているオペレーティング システムの最新のリストについては、「リリースノート」を参照するか、Web サイト(<u>arcserve.com</u>)にアクセスしてください。

重要: 複数のバージョンのコンポーネントの組み合わせはサポートされていません。Arcserve Replication/High Availability コンポーネントのバージョンが混在している場合は、各コンポーネントのバージョンが次のルールに従っている必要があります: *RHA マネージャ GUI = RHA PowerShell >= コントロール サービス >= マスタ エンジン*>= レプリカエンジン。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

コントロール サービスの要件	20
<u>エンジンの要件</u>	21
<u>管理センターの要件</u>	22
<u>PowerShell の要件</u>	23

コントロールサービスの要件

オペレーティング システム

- Windows Server 2008 (32ビット版および 64ビット版)
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server2012
- WindowsServer 2012 R2
- Windows Server2016

重要:コントロールサービスのインストール中にサービスログオン情報を入力する 場合は、管理者アカウントを使用するか、または新規アカウントを定義できます。 新規アカウントを定義する場合は、OS が提供する Computer Browser サービスの スタートアップ状態が有効化されており、サービスが実行中である必要がありま す。Windows Server 2003 では、Computer Browser サービスはデフォルトで有効に なっていますが、Windows Server 2008 ではデフォルトで無効になっています。した がって、Windows Server 2008 にエンジンを インストールして新規アカウントを定義 する場合は、インストールの開始前に Computer Browser サービスのスタートアップ 状態を **自動**]に変更し、サービスを起動しておく必要があります。さらに、 Computer Browser サービスはファイルとプリンタ共有に依存するので、 序ットワーク と共有 センター]で **ファイルとプリンタの共有**]をオンにしておく必要があります。 Computer Browser サービスのスタートアップ状態を有効化する方法については、<u>リ</u> ンクを参照してください。

インストールの完了後は、Computer Browser サービスを停止し、スタートアップ状態を無効に戻してもかまいません。

必須アプリケーションがマシンにインストールされていない場合、インストールプロセ ス中に自動的にインストールされます。 インストールされるアプリケーションは以下の とおりです。

- Microsoft .NET Framework 4.5 (4.0 以上がまだインストールされていない場合)
- ユーザ認証情報
 - Arcserve RHA コントロール サービスを実行する Windows ユーザは、インストールディレクトリへの読み取り/書き込み権限が必要です。

エンジンの要件

サポートされているシステムの最新情報については、<u>互換性マトリクス</u>を参照してく ださい。

重要: Exchange シナリオを Windows 2008 または 2008 R2 で適切に動作させるためには、Microsoft .Net framework 4 以上をマスタ サーバとレプリカ サーバの両方 にインストールする必要があります。詳細については、KB 記事を参照してください。

注: エンジンのインストール中にサービスログオン情報を入力する場合、ローカル システムアカウントを使用するか、新規アカウントを定義できます。新規アカウント を定義する場合は、OS が提供する Computer Browser サービスのスタートアップ状 態が有効化されており、サービスが実行中である必要があります。Windows Server 2003 では、Computer Browser サービスはデフォルトで有効になっています が、Windows Server 2008 ではデフォルトで無効になっています。したがって、 Windows Server 2008 にエンジンをインストールして新規システムアカウントを定義 する場合は、インストールの開始前に Computer Browser サービスのスタートアップ 状態を 自動]に変更し、サービスを起動しておく必要があります。さらに、 Computer Browser サービスはファイルとプリンタ共有に依存するので、「トットワーク と共有センター」で「ファイルとプリンタの共有]をオンにしておく必要があります。 Computer Browser サービスのスタートアップ状態を有効化する方法については、リ ンクを参照してください。

インストールの完了後は、Computer Browser サービスを停止し、スタートアップ状態を無効に戻してもかまいません。

管理センターの要件

Web ブラウザ

Internet Explorer バージョン 8、9、10、または 11

注: ブラウザのアクティブ スクリプトを有効にします。

ログオン アカウント

 管理センタにログインするには、コントロールサービスがインストールされている ローカルマシンの管理者グループか、ACL ライセンスを使用している場合は対応する ACL ユーザグループのメンバである必要があります。

PowerShell の要件

オペレーティング システム

- Windows Server 2008 (32 ビット版および 64 ビット版)
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2008 32 ビット版および 64 ビット版
- Windows Server2012
- WindowsServer 2012 R2
- Windows Server2016

.Net Framework

Microsoft .NET Framework 4.0 以上

Windows PowerShell のインストールには .Net Framework が必要です。まだシステムにインストールしていない場合は、Microsoft ダウンロード センターからダウンロードしてインストールすることができます。

第3章: Arcserve RHA のインストール、アップグレード、 アンインストール

このセクションでは、Arcserve RHA のインストールプロセスとアップグレードの実行方法について説明します。

<u>Windows Installer の登録</u>	
<u>Arcserve RHA の初回インストール</u>	
<u>コンポーネント インストール ワークフロー</u>	
Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のインストール	
<u>製品のアップグレード</u>	
Arcserve RHA コントロール サービスのインストール	
Arcserve RHA エンジンをインストールする方法	45
管理センターおよびマネージャのインストールとオープン	
Arcserve RHA PowerShell のインストール	
Arcserve RHA のアンインストール	
Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のアンインストール	
CAVSSSoftProv エラーのトラブルシューティング	
RHA エンジン検証の問題のトラブルシューティング	
リモート インストーラ使用時の検証エラーのトラブルシューティング	61

Windows Installer の登録

Arcserve RHA をインストールするには、Microsoft Windows Installer サービスが正常 にインストールされている必要があります。このサービスが停止または破損している 場合は、特定のアプリケーションをインストールまたはアンインストールするときに以 下のエラーが発生します。

Windows Installer エラー 1720/1722

このエラーを回避するには、以下の2通りの方法があります。

- 現在のWindows Installer サービスバージョンを再登録する
- 最新の Windows Installer サービス バージョンをダウンロード する

現在のバージョンを再登録するには、 [スタート] - [ファイル名を指定して実行]を クリックし、以下のコマンドを入力します。

Msiexec/unregister

Msiexec/regserver

最新のWindows Installer サービス バージョンをインストールする方法

- 1. Microsoft の Web サイトにアクセスし、最新の Windows Installer をダウンロードしま す。
- 2. システム要件に応じて、Microsoftの手順に従ってサービスをインストールします。
- 3. インストールの完了後、コンピュータを再起動します。
- 4. サービスが実行されていることを確認します。 [スタート] [ファイル名を指定して実行]をクリックし、以下のコマンドを入力します。

services.msc

[サービス]画面が表示されます。Windows Installer サービスを探し、ステータスが開始]であることを確認します。必要な場合、スタートアップの種類を自動]に変更し、サービスが実行されていない場合は手動で開始します。

Windows Installer のインストールと確認が完了したら、Arcserve RHA をインストールできます。

Arcserve RHA の初回インストール

Arcserve RHA コンポーネントの初めてのインストールは非常に簡単です。インストールパッケージには、「Setup.exe」というインストールファイルが含まれています。インストール パッケージは、Arcserve RHA の Web サイトからダウンロードできます。この「Setup.exe」によって、インストール手順を示す標準のインストールウィザードが実行されます。

- このインストールでは、再起動やアプリケーションのシャットダウンは必要ありません。
- 必要な Windows Installer (INSTMSI.EXE) のレベルは 3.0 です。特に指定がない限り、すべてのサポートされているオペレーティング システムには Windows Installer 3.0 が組み込みアプリケーションとして含まれています。

標準的な操作指示により、インストールが進行します。ユーザが決定する主な事項は、以下の各種コンポーネントのインストール先サーバのみです。

- すべてのシナリオのモニタと管理に使用されるコンピュータにコントロールサービスをインストールします。
- エンジンは、マスタおよびレプリカ サーバの両 方 にインストールします。
- Arcserve RHA コンポーネントをインストールするユーザは、ローカル管理者権限 を持っているか、ローカル管理者グループのメンバである必要があります。

注:デフォルトのインストールディレクトリは、 INSTALLDIR\Program Files\CA\ARCServe RHA\component names です。

- インストールプロセス中に、Arcserve RHA サービスを実行するサービスアカウントを入力するように求めるメッセージが表示されます。
- HA (ハイアベイラビリティ) シナリオを実行する場合は、Arcserve RHA サービス を実行するアカウントには、ローカルシステムアカウント権限とは別に、追加の 権限が必要な場合があります(詳細については、該当する「Arcserve HA Operations Guide」を参照してください)。
- Arcserve RHA コントロール サービスを実行する Windows ユーザアカウントには、インストールディレクトリへの読み取り/書き込み権限が必要です。
- Arcserve RHA エンジンのサービス ログオン アカウントには、インストール ディレクトリへの読み取り/書き込み権限が必要です。

コンポーネント インストール ワークフロー

Arcserve RHA の基本コンポーネントのインストールは、以下の簡単な手順で構成 されます。

- コントロールサービスのインストール スタンドアロン Microsoft サーバにコントロール サービスをインストールします。「Setup.exe」ファイルを使用して、Arcserve RHA [コ ントロールサービス]オプションを選択し、ウィザードの指示に従います。
- 2. マネージャのインストール Arcserve RHA 概要 ページを開きます。このページの シ ナリオ管理]Arcserve RHAリンクをクリックすると、システムによって マネージャがロー カルコンピュータに自動的にインストールされます。
- エンジンのインストール-マネージャを起動し、シナリオ作成ウィザードを使用して、 新規シナリオを作成します。シナリオの作成中に、シナリオに関連するマスタホスト とレプリカホストにエンジンをインストールできます。また、「Setup.exe」ファイルを使 用してローカルにエンジンをインストールしたり、リモートインストーラを使用してー 度に多数のエンジンをインストールしたりすることもできます。

Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のインス トール

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- <u>インストールの前提条件</u>
- Microsoft Windows Server 2012 の考慮事項
- Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のインストール

インストールの前提条件

Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA をインストールする前に、ご使用の環境が Microsoft Failover Cluster の最小要件を満たしていることを確認してください。

- Arcserve RHA エンジンがクラスタ内のすべてのノードにインストールされていることを確認します。エンジンのインストールの詳細については、「Arcserve RHA インストールガイド」を参照してください。
- Microsoft .NET Framework 3.5 がクラスタ内のすべてのノード上にインストールされていることを確認します。
- Windows Server フェールオーバクラスタ機能をインストールし、フェールオーバクラスタを作成してあることを確認します。

上記の条件を確認したら、Install Shield ウィザードを起動します。

Microsoft Windows Server 2012 の考慮事項

Arcserve RHA を Microsoft Windows Server 2012 にインストールしている場合は、 以下の点を考慮してください。

Microsoft クラスタ: Microsoft は、フェールオーバクラスタリング用の cluster.exe コマンドラインツールを廃止し、代わりに Windows PowerShell 用フェールオー バクラスタリングモジュールを導入しました。Windows Server 2012 機能をイン ストールする際は、フェールオーバクラスタコマンドインターフェースをフェール オーバクラスタリングツール機能の下に必ずインストールしてください。

Ъ	Add Roles and Features Wizard	_ D X
Before You Begin Installation Type Server Selection Server Roles Features Confirmation Results	Add Roles and Features Wizard Select one or more features to install on the selected server. Features	DESTINATION SERVER liuke06-win8-n1.M2.com
	Network Load Balancing Tools SNMP Tools Windows System Resource Manager RSAT WINS Server Tools Role Administration Tools <	,
	< Previous Next >	Install Cancel

Microsoft.com からの.NET Framework 3.5 のインストール

Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のインス トール

クラスタ環境内の各ノードで、CAARCserveRHAforMSFC.exe または CAARCserveRHAforMSFC64.exe (64 ビット バージョン) という名前の Arcserve RHA MSFC プラグインを実行して、InstallShield ウィザードを起動します。このウィザード の手順に従って、Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA ディスクリソースおよ び Arcserve RHA Disk Cluster Manager MMC スナップインをインストールします。

ウィザード画面を完了して、Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA をインストールします。 院全]または Dスタム]セットアップを選択できます。

- 完全 -- プログラムコンポーネントをすべてインストールします。
- カスタム -- 指定するコンポーネントをインストールします。

注: インストール後、ディスクリソースを作成する前に、Arcserve RHA エンジンを再起動する必要があります。Microsoft .NET Framework 3.5 が必要です。ソフトウェアによってこれが検出されない場合、そのインストールおよびインストールの再試行を促すメッセージが表示されます。

インストール中に、必要なプロセスが例外として Windows ファイアウォールに追加 されます。別のファイアウォール製品を使用しているか、手動で設定してある場合 は、MMC と Arcserve RHA エンジン間の通信が適切に行われるようにするために、 Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA プロセスを例外として必ず追加してく ださい。

製品のアップグレード

Arcserve RHA は、多くの点で旧バージョンとは異なりますが、新規インストールと 既存インストールの更新に大きな違いはありません。システムで以前のコンポーネ ントが自動的に検出され、MSI ウィザードによってアプリケーションのアップグレード に必要なすべてのタスクが実行されます。既存のシナリオをインポートし、Arcserve RHA Manager によってそれらを再利用できます。

重要:前のリリースからr16.0 SP2 以降にアップグレードした場合、フルシステムシナリオを少なくとも1回再実行する必要があります。

注: 旧バージョンで作成されたシナリオは、デフォルトで INSTALLDIR:\Program Files\CA\<ca> RHA\ws_scenarios に保存されています。インポート プロセスの詳細 については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください。

正常なアップグレードのために削除する必要があるコンポーネントは、以前の Arcserve RHA エンジンのみです。そのため、マスタサーバとレプリカサーバから Arcserve RHA をアンインストールする必要があります。「Setup.exe」ファイルを使用 してこの手順を自動的に行うか、または新規インストールを開始する前に手動で 行うことが可能です。

注: 以前のバージョンの GUI が含まれているマシンにコントロール サービスをインストールしようとすると、以下の内容のメッセージが表示されます。

「以前のバージョンのArcserve RHA が検出されました。新しいバージョンをインストールするために削除する必要はありません。」

[DK]をクリックすると、そのままインストール作業を続行します。

「setup.exe」ファイルを使用して以前のエンジンを削除するには、以下の手順に従います。

- 1. Setup.exe インストール ファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザード が表示されます。
- 2. **[インストール**]オプションをクリックします。 **ロンポーネントのインストール**]ページが 表示されます。
- 3. [Arcserve RHA エンジンのインストール]オプションをクリックします。 [Arcserve RHA エンジンのインストール]オプションをクリックします。

セットアップ言語の選択]ダイアログボックスが表示されます。

 ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、 [DK]を クリックします。

プログレスバーが表示されます。

5. 初期プロセスが完了すると、[ようこそ]ページが表示されます。

ます。

- 6. **次**へ]をクリックします。システムによって、古いエンジンがサーバに存在することが 検出され、**前バージョンについての情報**]ページが表示されます。
- 7. 以前のエンジンを自動的に削除するには、 次へ]をクリックします。 プログレス バーが表示されます。
- 8. 削除プロセスが完了すると、 使用許諾契約]ページが表示されます。
- 9. 「<u>Arcserve RHA エンジンのインストール</u>」に記載されているように、ウィザードの指示 に従ってインストールを完了します。
 注:既存のブックマークおよびリワインドポイントはアップグレード後にすべて失われ

段階的なアップグレード

Arcserve RHA のこのリリースは旧バージョンとの後方互換性を保持しているため、 段階的にアップグレードできます。

混合環境で Arcserve RHA を実行するには、以下のことに注意してください。

- 最初にコントロールサービスをアップグレードします。
- マスタ サーバとレプリカ サーバをすぐにアップグレードしない場合は、マスタをアップグレードしてからレプリカをアップグレードします。両方のサーバがアップグレードされるまで、バックワードレプリケーションはサポートされていません。
- ハイ アベイラビリティ シナリオの場合は、マスタおよびレプリカサーバをすぐにアップグレードする必要があります。
- 旧バージョンのエンジンが実行されている場合は新しいファイルサーバまたはア プリケーションシナリオを作成できませんが、新しい CD シナリオは作成できます。

Arcserve RHA コントロール サービスのインストール

このセクションでは、Arcserve RHA コントロール サービスのインストール方法 について 説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- コントロール サービスのインストールに関する考慮事項
- 標準処理用のコントロールサービスのインストール
- コントロールサービス役割切り替え用の2つのコントロールサービスのインス トール
- CLIを使用したコントロールサービスのインストール
コントロール サービスのインストールに関する考慮事 項

コントロール サービス自体で実行する手順のタイプに従って、1つ、または2つのコ ントロール サービスをインストールする必要があります。

Arcserve RHA標準的な レプリケーションおよびハイ アベイラビリティ処理の場合は、コントロールサービスを1つだけインストールします。このコントロールサービスは、すべての Arcserve RHA 操作の単一制御ポイントとして機能します。2つのコントロールサービス間でスイッチオーバーを実行 せずにコントロールサービス データをレプリケートする場合は、インストールするコントロールサービスは1つでかまいません。

注: コントロール サービス データをレプリケート するには、 すべての Arcserve RHA コンポーネントのインストールが完了した後に、 マネージャを使用してレプリケー ション コントロール サービス シナリオを作成する必要があります。

 コントロールサービスデータをレプリケートし、元のコントロールサービスとスタン バイのコントロールサービス間で役割を切り替える場合は、2つのコントロール サービスをインストールする 必要があります。インストールするコントロールサービ スの1つがアクティブなコントロールサービスとして機能し、もう1つがスタンバイ コントロールサービスとして機能します。コントロールサービスは一度に1つしか インストールされないため、2つのコントロールサービスをインストールする場合 は、インストール処理は2回実行する必要があります。

Notes:

- ◆ コントロール サービスに HA ソリューションを適用するには、すべての Arcserve RHA コンポーネントのインストールが完了した後に、マネージャ を使用して HA コントロール サービス シナリオを作成する必要があります。
- ◆ コントロール サービスに HA ソリューションを適用する場合は、HA ライセンスは必要ありません。ただし、コントロール サービス シナリオを作成する前に、Arcserve RHA を登録する必要があります。
- ◆ レプリケーションおよび HA コントロール サービス シナリオの作成の詳細については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください。

標準処理用のコントロールサービスのインストール

Arcserve RHA コントロール サービスをインストールする方法

- 1. Setup.exe インストール ファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザードが表示されます。
- 2. **[インストール**]オプションをクリックします。 **ロンポーネントのインストール**]ページが 表示されます。
- 3. **[Arcserve RHAコントロール サービスのインストール**]オプションをクリックします。 **セットアップ言 語 の選 択**]ダイアログ ボックスが表 示 されます。
- 4. ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、 [DK]を クリックします。 プログレス バーがま ニ さわます 初期プロセスが完 ス まる トー 「トラニ ろ」 ページが

プログレス バーが表 示されます。初期 プロセスが完了すると、 **ようこそ**]ページが表示されます。

- 5. 次へ]をクリックします。 使用許諾契約]ページが表示されます。
- 6. **同意する**]チェックボックスをオンにして、 次へ]をクリックします。 ユーザ情報] ページが表示されます。
- 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。
 続いて、 次へ]をクリックします。 [インストール先フォルダ]ページが表示されます。
- 8. **変更**]ボタンをクリックしてコントロールサービスのインストール場所を選択するか、 デフォルトの場所のままにします。続いて、 **次へ**]をクリックします。

注: デフォルトのインストール ディレクトリは \Program Files\CA\Arcserve\component_name です。すべての実行可能ファイル、DLL、およ び環境設定ファイルは INSTALLDIR内にあります。

[SL 設定]ページが表示されます。

9. **[SL 設定**]ページでは、SSL 証明書を使用して、コントロールサービスとのセキュア な通信を確立できます。

IT 環境でソフトウェアがローカルネットワークに展開されており、セキュリティ上の懸 念がない場合は、 [SL 構成を使用] チェック ボックスをオフしてもかまいません。オ フにすると、コントロールサービスとの通信は HTTP を介して行われます。

SSL 設定を使用する場合は、「**SSL 設定を使用**]チェックボックスをオンにしてくだ さい。この場合は、コントロールサービスとの通信は HTTPS を介して行われます。 このオプションをオンにした場合は、「**SSL ポート**]ボックスにポート番号を入力して、 使用可能ないずれかの証明書タイプのボックスに証明書ファイルを入力する必 要があります。 Notes:

- ◆ [SL 設定]オプションを選択すると、デフォルトでは [SL ポート]の番号は 443 になります。ただし、このポート番号がすでに使用されている場合は、 別のポートを使用してください。
- SSL 設定]オプションを選択する場合は、概要ページを開くときに、コントロールサービスマシンの(IP アドレスではなく)ホスト名を使用する必要があります。次のように、コントロールサービスのホスト名とポート番号を入力します。

https://ホスト名:ポート番号/start_page.aspx

- この.CER および.PEX 証明書は、サードパーティの証明機関により提供されるインターネットセキュリティファイルです。これらの証明書はWeb サーバにインストールされ、そのサーバによりホストされる特定のWeb サイトの有効性を認証します。これらの証明書は、(「https://」で始まる)安全なサイトにアクセスする際、ブラウザウィンドウ端近くのロックアイコンで示されます。「SL環境設定]ページで、.CER および.PEX 証明書のパスと名前を入力すると、Arcserve RHA コントロールサービス InstallShield ウィザードは証明書をインストールし、SSL 証明書のメタ情報をWeb サーバに追加します。このようなメタ情報は、メタストアのHTTP API によって維持されており、HTTPS セッションにおいて証明書を交換するため、証明書を検出するのに使用されます。
- ◆現在承認されたSSL証明書がない場合は、自己署名証明書を使用できます。自己署名証明書]オプションのチェックボックスをオンにした後は、 リモートマシンから概要ページにアクセスする際に証明書をインストールする必要があります。詳細については、「SSL自己署名証明書のインストール」を参照してください。
- 10. 次へ]をクリックします。 サービス ログオン情報]ページが表示されます。
- 11. 選択して、必要な情報を入力します。ローカルシステムアカウントの権限を使用 するか、ユーザ名とパスワードを「ドメイン/ユーザ名」の形式で指定することができ ます。

注: 複数のマシンの管理者権限を持つドメイン アカウントでコントロールサービス を実行すると、エンジンをリモートで展開して接続できます。このとき、個々のサー バで認証は求められません。

 12. 次へ]をクリックします。 ロントロール サービスの役割]ページが表示されます。
 注: 2 つのコントロール サービスをインストールする目的が、役割の切り替えのみで ある場合は、ロントロール サービスを許可する]チェック ボックスをオンにして、現 在インストールしているコントロール サービスをアクティブとスタンバイのどちらのコント ロール サービスとするのか定義します。 13. コントロール サービスの通常 インストールを行う場合は、 次へ]をクリックします。 プログラムのインストール準備完了]ページが表示されます。

注: 戻る]ボタンをクリックして前のページに戻り、環境設定を変更します。

- 14. **[インストール**]ボタンをクリックして、コントロール サービスをインストールします。 **ントロール サービスのインストール**]ページが表示されます。
- 15. インストールが完了したら、 次へ]をクリックします。次のページが表示されます。
- 16. ウィザードを終了するには、 **終了**]をクリックしてください。これで、指定した場所 に、コントロールサービスがインストールされました。

コントロール サービス役割切り替え用の 2 つのコント ロール サービスのインストール

役割切り替えを実行するために2つのコントロールサービスをインストールする方法は、標準インストールと基本的には同じです。主な相違点は2つのみです。

- 2 つのコントロールサービスをインストールするため、インストール処理を2回繰り返す必要があります。
- インストールしているコントロールサービスをアクティブコントロールサービスとして 機能させるのか、スタンバイコントロールサービスとして機能させるのかを、イン ストール中に定義する必要があります。

役割切り替え用に <carha> コントロール サービスをインストールする方法

- 1. Setup.exe インストール ファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザードが表示されます。
- 2. **[インストール**]オプションをクリックします。 **ロンポーネントのインストール**]ページが 表示されます。
- 3. **ロントロール サービスのインストール**]オプションをクリックします。 セットアップ言語の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
- ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、 DK]を クリックします。
 プログレス バーが表示されます。初期プロセスが完了すると、 ようこそ]ページが 表示されます。
- 5. 次へ]をクリックします。 使用許諾契約]ページが表示されます。
- 6. **同意する**]チェックボックスをオンにして、 **次**へ]をクリックします。 ユーザ情報] ページが表示されます。
- 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。
 続いて、 (次へ)をクリックします。 [インストール先フォルダ]ページが表示されます。
- 8. **変更**]ボタンをクリックしてコントロールサービスのインストール場所を選択するか、 デフォルトの場所のままにします。続いて、 **次へ**]をクリックします。

注: デフォルトのインストールディレクトリ(INSTALLDIR)は \Program Files\CA\ArcserveRHA\component_name です。すべての実行可能ファイル、DLL、 および環境設定ファイルはINSTALLDIR内にあります。

[SL 設定]ページが表示されます。

9. **[SL 設定**]ページでは、SSL 証明書を使用して、コントロールサービスとのセキュア な通信を確立できます。

- ◆ [SL 設 定]オプションの使用については、「標準処理でのコントロールサービスのインストール」を参照してください。
- ◆ SSL 自己署名証明書の使用については、「<u>SSL 自己署名証明書のインス</u> トール」を参照してください。
- 10. 通信環境設定を選択してから、次へ]をクリックします。 サービス ログオン情報]ページが表示されます。

選択して、必要な情報を入力します。ローカルシステムアカウントの権限を使用 するか、ユーザ名とパスワードを「ドメイン/ユーザ名」の形式で指定することができます。

注: 複数のマシンの管理者権限を持つドメイン アカウントでコントロールサービス を実行すると、エンジンをリモートで展開して接続できます。このとき、個々のサー バで認証は求められません。

- 次へ]をクリックします。
 シトロールサービスの役割]ページが表示されます。
 役割切り替えを実行するためにコントロールサービスをインストールするには、
 ントロールサービスを許可する]チェックボックスをオンにします。次に、現在インストールしているコントロールサービスをアクティブまたはスタンバイのどちらのコントロールサービスとして機能させるのか定義します。
- 12. **次**へ]をクリックします。 プログラムのインストール準備完了]ページが表示されます。
 - 注: 戻る]ボタンをクリックして前のページに戻り、環境設定を変更します。
- If レストール ボタンをクリックして、コントロール サービスをインストールします。
 Arcserve RHA Arcserve RHA コントロール サービスのインストール ページが表示され、インストールの進捗状況が表示されます。
- 14. インストールが完了したら、 次へ]をクリックします。 [InstallShield ウィザードの完了]ページが表示されます。
- 15. ウィザードを終了するには、 **終了**]をクリックしてください。これで、指定した場所 に、コントロールサービスがインストールされました。
- 16. このインストール処理を2つ目のコントロールサービス(アクティブ、またはスタンバイ)に対して繰り返します。
- 17. 両方のコントロールサービスのインストール先サーバに<u>Arcserve RHA エンジンをイン</u> ストールします。

CLI を使用したコント ロール サービスのインスト ール

CLI (コマンド ライン インターフェース) を使 用して Arcserve RHA コントロール サービ スをインストールできます。

CLIを使用して Arcserve RHA コントロール サービスをインストールする方法

CLIを開き、以下のコマンドを入力します。

CAARCserveRHAManager.exe /S "/v/qn LOCALACCOUNT=No XOLOGIN="[ドメイン/ユーザ名]" XOPASSWORD="[パスワード]" XOLANG="[言語]"

パラメータ

CAARCserveRHAManager.exe

Arcserve RHA コントロール サービスのセット アップ ファイル

 $S \setminus V \setminus QN$

サイレント インストール パラメータ

ドメイン/ユーザ名、パスワード

「サポートされるアプリケーションとデータベースの要件」の章で説明されているように、使用するプラットフォームと実装するソリューションに応じて必要な 情報を入力します。ログオンアカウントの情報を入力しない場合、デフォルトはローカルシステムです。

言語

以下の言語コードのいずれかを使用して Arcserve RHA の言語を選択します。

- ◆ 1033 英語
- 1036 フランス語
- ◆ 1041 日本語
- ◆ 2052 中国語(簡体字)
- ◆ 1028 中国語(繁体字)
- ◆ 1031 ドイツ語
- ◆ 1034 スペイン語
- 1040 イタリア語
- ◆ 1046 ポルトガル語 (ブラジル)

注: コントロール サービスのサイレント インストールに SSL は使用 できません。 例: CLI を使用したコントロール サービスのインストール CAARCserveRHAManager.exe /S "/v/qn XOLOGIN="domain/administrator" XOPASSWORD="abcd" XOLANG="1033"

Arcserve RHA エンジンをインストールする方法

このセクションでは、Arcserve RHA エンジンのインストール方法について説明します。

以下は、Arcserve RHA エンジンをインストールする3つの方法です。

- Setup.exe ファイルの使用 エンジンを一度に1つのホストにインストールします。このインストール方法では、以前のバージョンのエンジンが自動的に検出され、新規エンジンのインストール中に古いエンジンを削除することができます。このインストール手順は、「Arcserve RHA コントロールサービスのインストール」で説明したコントロールサービスのインストール手順と同様です。
- シナリオ作成ウィザードの使用 新規シナリオの作成中に、マスタホストとレプリカホストにエンジンをリモートインストールします。
- リモート インストーラの使用 リモート インストーラ ウィザードを使用して、一度 に1つ以上のホストにエンジンをリモート インストールします。

Windows Server 2008 R2 サーバコアへの Arcserve RHA エンジンのインストール Windows 2008 R2 サーバコアに RHA エンジンをインストールする前に、ieproxy.dll を 登録し、Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージをインストールします。

以下の手順に従います。

- 1. Windows Server 2008 R2 (サーバコアインストールなし)上の %programfiles% Internet Explorer フォルダに移動します。
- ieproxy.dll ファイルを見つけて、サーバコアの以下の場所にそれをコピーします。
 %systemRoot%\system32
- 3. 登録するには、コマンドプロンプトで以下のコマンドを入力します。

regsvr32 %systemRoot%\system32\ieproxy.dll

 Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージ(x64) をインストールします。 再 頒布可能パッケージは、www.microsoft.com からダウンロードしてください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- インストールファイル Setup.exe を使用したエンジンのインストール
- シナリオ作成ウィザードを使用したエンジンのインストール
- <u>リモート インストーラを使用したエンジンのインストール</u>
- <u>CLI を使用したエンジンのインストール</u>

インストールファイル Setup.exe を使用したエンジンの インストール

Setup.exe ファイルを使用した Arcserve RHA エンジンのインストール方法

1. Setup.exe インストールファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザードが表示されます。

重要: Windows 2003 および 2008 では、インストール中 にデジタル署名 エラーが発生し、インストールがロールバックする可能性があります。このエラーを回避するには、Windows ルート証明書を更新する必要があります。<u>Microsoft</u>の Web サイトから更新をダウンロードしてインストールします。

- 2. **[インストール**]オプションをクリックします。 **ロンポーネントのインストール**]ページが 表示されます。
- 3. **[Arcserve RHA エンジンのインストール]**オプションをクリックします。 **セットアップ言 語の選択**]ダイアログ ボックスが表示 されます。
- ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、 [DK]を クリックします。

プログレス バーが表 示されます。初期 プロセスが完了すると、 **ようこそ**]ページが表示されます。

5. 次へ]をクリックします。 使用許諾契約]ページが表示されます。

注: 以前のバージョンのエンジンがサーバに存在する場合は、前バージョンについての情報]ページが表示され、エンジンをアンインストールするためのオプションが提供されます。

- 6. 使用許諾契約]ページで、同意する]チェックボックスをオンにして、 次へ]をク リックします。 [インストール先フォルダ]ページが表示されます。
- 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。
 続いて、 次へ]をクリックします。 カスタム セットアップ]ページが表示されます。
 注: [エンジン]オプションが選択されていると、 [スペース]ボタンが使用できます。
 このボタンをクリックすると、選択した機能のインストールに必要なディスク容量を表示できます。
- 8. 次へ]をクリックします。 サービス ログオン情報]ページが表示されます。
- 9. 「サポートされるアプリケーションとデータベースの要件」の章で説明されているよう に、使用するプラットフォームと実装するソリューションに応じて必要な情報を入力 します。
 - ファイルサーバでは、以下のガイドラインを使用してください。

- ◆ レプリケーション シナリオの場合 ローカルシステム アカウントの利用 でかまい ません。
- ◆ クラスタ(レプリケーション シナリオ)の場合 クラスタ サービスと同じアカウント またはこれと同等の権限で実行する必要があります。
- ◆ ハイ アベイラビリティシナリオ(クラスタを含む)の場合 -
 - ドメイン管理者権限を持つアカウントで実行する必要があります。
 Domain Admins グループがビルトインドメインローカルグループ管理者のメンバでない場合は、そのメンバであるアカウントを使用する必要があります。
 - また、アカウントは、ローカルマシンの Administrators グループのメンバである必要があります。Domain Admins グループがメンバでない場合は、アカウントを手動で追加します。ワークグループ内のサーバの場合は、ローカルシステムアカウントを使用します。
- 10. **次へ**]をクリックします。 [インストール準備完了]ページが表示されます。
- 11. **[インストール**]をクリックします。 **[Arcserve RHA エンジンのインストール]**ページが表示されます。
- 12. インストールが完了したら、 次へ]をクリックします。 [InstallShield ウィザード の完了]ページが表示されます。
- 13. 終了]ボタンをクリックしてインストールを終了します。

シナリオ作成ウィザードを使用したエンジンのインストー ル

シナリオ作成ウィザードを使用したエンジンのインストール

1. Arcserve RHA マネージャで、 **シナリオ**]メニューから **新規**]オプションを選択しま す。

シナリオ作成ウィザードが表示されます。

- 2. 以下のように、必要なシナリオオプションを選択します。
 - ◆ 新規シナリオの作成]オプションをオンにします。
 - 「グループ]ドロップダウンリストから、新規シナリオを割り当てるグループを選
 訳するか、または新規グループの名前を入力します。
- 3. 次へ]をクリックします。 サーバおよび製品タイプの選択]ページが表示されます。
- 4. 以下のように、必要なシナリオオプションを選択します。
 - ◆ [サーバタイプの選択]リストから、シナリオで使用するサーバのタイプを選択します。
 - ◆ 製品タイプの選択]で、ライセンスに応じてレプリケーションまたはハイアベ イラビリティシナリオを選択します。
 - ◆ 注: レプリカ上のタスク]オプションの使用方法については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください。
- 5. 次へ]をクリックします。 マスタ およびレプリカ ホスト]ページが表示されます。
- 6. 以下の情報を入力します。
 - ◆ ジナリオ名]- デフォルトのシナリオ名を使用するか、シナリオの新しい名前 を入力します。
 - 「マスタ ホスト名 /IP]および「レプリカ ホスト名 /IP] マスタ ホストとレプリカ ホストの名前または IP を入力するか、 診照]ボタンを使用して検索します。
 注: HA シナリオの作成時には、(ホスト名ではなく)ホストの IP アドレスを入力することをお勧めします。
 - ◆ 「ホスト検証のためのユーザ認証情報] エンジンをインストールするリモート ホストにアクセスできるようにするユーザ認証情報を入力します。
- 7. 次へ]をクリックします。 エンジン検証]ページが表示されます。

注: 「ホスト検証のためのユーザ認証情報」ダイアログボックスが表示されたら、 エンジンをインストールするリモートホストにアクセスできるようにするユーザ認証情報を入力します。 システムで、前のページで選択したマスタホストとレプリカホストの接続が確認されます。接続が確認されたら、エンジンが各ホストにインストールされているかどうかがチェックされます。

注:指定されたホストへの接続を確立できなかった場合は、エラーメッセージが 表示されます。エラーが報告された場合、続行するにはそれらを解決する必要 があります。

[**サーバのステータス**]列を使用して、選択したホストにエンジンがインストールされているかどうかを確認します。

- ◆ すべてのホストにインストール済みバージョンがある場合は、次のページに進むことができます。
- ◆ いずれかのホストの 開行バージョン]列に [インストールされていません]と表示されている場合は、これらのホストにエンジンをインストールする必要があります。

注: ホストの一方または両方にエンジンがインストールされていない場合、 **次へ**]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。

[いいえ]をクリックして、 **エンジン検証**]ページに戻り、エンジンをインストー ルします。

9. **エンジン検証**]ページで **インストール**]ボタンをクリックして、選択したホストにエン ジンをリモートでインストールします。

注: エンジンは一度に両方のホストにインストールできます。この操作を実行する には、2 つのホストのチェックボックスをオンにしてから、 [インストール]ボタンをクリッ クします。

- 10. インストールが完了するまで待ちます。エンジンのバージョン番号が 現行バージョ ン]列に表示されます。
- 11. **次へ**]をクリックします。 マスタ ルート ディレクトリ]が表示されます。

ウィザードの指示に従って、シナリオの作成を完了します(新規シナリオの作成の 詳細については、「Arcserve RHA 管理者ガイド」を参照してください)。

リモート インストーラを使用したエンジンのインストール

リモート インストール ウィザードを使用すると、任意の数のサーバ、またはクラスタ ノードにエンジンを一度に展開できます。

エンジンのインストール対象となっているマシンでファイアウォールが実行されている 場合は、Windows ファイアウォールの例外リストでWMI (Windows Management Instrumentation)を例外として定義し、エンジンを有効にする必要があります。 Windows 2003 または Windows XP が実行されている場合は、Microsoft MSDNの Web サイトにアクセスし、「Connecting Through Windows Firewall」というドキュメント を検索してください。

注: 一部のセットアップでは、リモートWMIリクエストは無効です。これにより、リ モートインストーラを使用したArcserve RHA エンジンの展開時に、検証に失敗し ます。この問題を解決するには、「リモートインストーラ使用時の検証エラーのトラ ブルシューティング」を参照してください。

リモート インストーラを使用してエンジンをインストールする方法

1. Arcserve RHA マネージャで、 **シール**]メニューから **リモート インストーラの起動**]を 選択します。

[Jモート インストーラビュー]が開き、Jモート インストール ウィザードの ホスト選 択]ページが表示されます。

Notes:

- ◆ 現在マネージャにシナリオがある場合は、これらのシナリオに含まれるホストが 選択したホスト]ペインに表示されます。このペインでは、インストールされているエンジンのバージョンを簡単に更新できます。
- ・ リモート インストーラを使用しているときに他のマネージャ機能にアクセスする場合は、リモート インストールウィザードを最小化し、後で使用できます。このウィザードはリモート インストーラ モニタビューにバインドされています。
 ビューを切り替えると、ウィザードは自動的に最小化されます。
- 2. **ホストの選択**]ページで、エンジンをインストールするホストを選択します。ホスト は自動的に選択することも、手動で選択することもできます。
 - ドメイン内の既存のホストを自動的に検出するには、 ホスト ディスカバリの 開始]ボタンをクリックします。検出されたホストは、左側の 険出されたホスト]ペインに表示されます。ホストを選択するには、そのホストをダブルクリックします。ホストが、右側の 選択したホスト]ペインに表示されます。
 - ◆ ホストを手動で選択するには、 「ホスト名 / IP アドレス」ボックスにホスト名または IP アドレスを入力し、 追加]ボタンをクリックします。入力したホストが、 選択したホスト]ペインに表示されます。

注: クラスタを使用する場合、すべての物理ノードにエンジンをインストールし、クラスタ名の代わりに物理ノードを選択する必要があります。

3. 必要に応じて繰り返し選択します。エンジンは、 選択したホスト]ペインに表示 されているサーバのみにインストールされます。

注: 選択したホスト]ペインからホストを削除するには、ホストを選択して、 削除]ボタンをクリックします。

- 4. ホストの選択に問題がない場合は、 次へ]をクリックします。 ユーザ認証情報] ページが表示されます。
- 5. 各ターゲット ホストへのアクセスに使用するユーザ アカウントを設定します。選択されているすべてのホストでローカル管理者の認証情報が必要です。

Notes:

- ◆ リモート ホストへのログインに使用したユーザ認証情報と完全に同じ情報 を入力する必要があります。
- ◆ 選択したホストにドメイン値を渡す必要がない場合は、ドメイン]フィールドは空白のままにし、ユーザ名の前に「.\」を入力します。
- ◆管理者権限のないドメインアカウントまたは管理者以外のローカルアカウントを使用してログインしている場合、デフォルト設定は 閱行ユーザ]から
 [以下のユーザ]に変わります。
- 6. 次へ]をクリックします。 [インストール前の検証]ページが表示されます。

リモート インストーラによって、前のページで選択したサーバが存在するかどうか、 およびサーバの接続と環境設定が自動的にチェックされます。検証プロセスが完 了すると、結果が表示されます。

注: サーバのステータスがエラーと報告されたが、そのサーバが存在し、正しく接続 されていることを確認した場合は、そのサーバを選択して、**再検証**]ボタンをク リックします。 リモート インストーラによって検証プロセスが繰り返されます。

7. すべてのサーバのステータスが **インストールされていません**]になったら、 **次へ**]をク リックします。

注: 古しいージョンのエンジンが [インストール済み]として報告される場合は、 ア ンインストール]ボタンをクリックしてそのエンジンをアンインストールできます。 アンイン ストールプロセスが完了したら、 次へ]をクリックします。

[インストール設定]ページが表示されます。

8. サービス ログオン情報] セクションで、アカウント タイプを選択してサービス ログオン情報を設定します。

ローカル システム アカウント

Windows ローカルシステム アカウントを使用するように指定します。

現行ユーザ

ログインに使用したユーザアカウントを使用するように指定します。

このアカウント

ユーザ名、パスワード、ドメインを入力して、別のユーザを使用するように指定します。

注: 既存のエンジンをアップグレードし、そのエンジンのログオン アカウント情報を Arcserve RHA で使用するには、 既存のインストールのサービス ログオン アカウント を使用]チェック ボックスをオンにします。

- 9. 次へ]をクリックします。 [インストール準備完了]ページが表示されます。
- 10. 必要なすべてのサーバが一覧表示されていることを確認します。次に、 **インス** トール]ボタンをクリックして、これらのサーバにエンジンをインストールします。 確認 メッセージが表示されます。
- 11. **【はい**】ボタンをクリックして、エンジンをインストールします。 **リモート インストーラ**]の ステータス ペインが表示されます。 **サーバのステータス**]に **インストール済み**]と 表示されるまで待ちます。
- 12. 『Jモート インストーラ』のステータスペインを閉じます。『Jモート インストーラ ビュー』で、インストールのステータスが『インストール完了』として表示されます。
 これで、選択したすべてのサーバまたはクラスタノードにエンジンがインストールされました。

CLI を使用したエンジンのインストール

CLI (コマンド ライン インターフェース) を使 用して、Arcserve RHA エンジンをマスタ サーバとレプリカ サーバにインストールできます。

CLI を使用して Arcserve RHA エンジンをインストールする方法

CLIを開き、以下のコマンドを入力します。

CAARCserveRHAEngine.exe /S "/v/qn LOCALACCOUNT=No XOLOGIN="[ドメイン/ユーザ名]" XOPASSWORD="[パスワード]" XOPORT="[ポート]" XOLANG="[言語]"

パラピAARCserveRHAEngine.exe

Arcserve RHA エンジンのセット アップ ファイル

 $S \setminus V \setminus QN$

サイレント インストール パラメータ

ドメイン/ユーザ名、パスワード

「サポートされるアプリケーションとデータベースの要件」の章で説明されているように、使用するプラットフォームと実装するソリューションに応じて必要な 情報を入力します。ログオンアカウントの情報を入力しない場合、デフォルトはローカルシステムです。

ポート

ポート番号を入力します。 デフォルトは 25000 です。

言語

以下の言語コードのいずれかを使用して言語を選択します。

- 1033 英語
- 1036 フランス語
- 1041 日本語
- 2052 中国語(簡体字)
- 1028 中国語(繁体字)
- 1031 ドイツ語
- 1034 スペイン語
- 1040 イタリア語
- 1046 ポルトガル語(ブラジル)

例: CLI を使用したエンジンのインストール

CAARCserveRHAEngine.exe /S "/v/qn XOLOGIN="domaun/administrator" XOPASSWORD="abcd" XOPORT="25000" XOLANG="1033"

管理センターおよびマネージャのインストールとオープン

管理センターとマネージャでは、コンポーネントやアプリケーションが事前にインストールされている必要はありません。これは、ワンクリックのインストール手順を基にしています。ネットワーク接続が存在し、Webブラウザがインストールされているどのワークステーションからでも実行できます。

マネージャをインストールする方法

 Internet Explorer を起動します。 アドレス ダイアログ ボックスで、コントロール サービスのホスト名 /IP アドレスとポート番号を次のように入力します。 http://ホスト名: ポート番号 /start_page.aspx

注: コントロール サービスのインストール中に **[SL 設定**]オプションを選択した場合は、概要ページを開くときに、コントロール サービスのマシンの(IP アドレスではなく) ホスト名を使用する必要があります。次のように、コントロール サービスのホスト名とポート番号を入力します。https://ホスト名:ポート番号/start_page.aspx **ログイン**]ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2. ユーザ名、パスワード、およびドメイン名を入力し、 **レグイン**]をクリックします。
- 3. 概要ページが表示されます。
- 4. **クイックスタート**]ツールバーで、「シナリオ管理]オプションを選択します。 マネージャコンポーネントが現在ローカルマシンにインストールされていることを示す プログレスバーが表示されます。
- 5. マネージャのインストールが完了すると、マネージャが表示されます。

重要:複数の管理者が同時にArcserve RHA マネージャにアクセスし、権限に応じて、必要なときはいつでも変更することができます。最後の更新が、シナリオの最新の状態として有効になります。したがって、複数の管理者がマネージャを同時に操作しているとき、ある管理者が別の管理者が行ったばかりの変更を誤って上書きする可能性があることに注意してください。こうした状況が発生しないように、内部で対策をとることをお勧めします。

Arcserve RHA PowerShell のインストール

このセクションでは、Arcserve RHA PowerShell のインストールについて説明します。

Arcserve RHA PowerShell を使用するには、事前に Windows PowerShell をインストールしておく必要があります。その後、Arcserve RHA PowerShell をインストールして、Arcserve RHA スナップインを PowerShell のコマンド セットに追加します。

重要: Arcserve RHA PowerShell と接続先のArcserve RHA コントロールサービスは同じバージョンでなければなりません。

注: Windows 2008 または 2008 R2 で Arcserve Replication/High Availability PowerShell を使用する場合は、リンクをクリックしてください。

Arcserve RHA PowerShell をインストールする方法

- 1. Setup.exe インストールファイルをダブルクリックします。Arcserve RHA インストール ウィザードが表示されます。
- 2. **[インストール**]オプションをクリックします。 **[インストールコンポーネント**]ページが表示されます。
- 3. **[Arcserve RHA PowerShell のインストール]**オプションをクリックします。 **セットアップ 言語の選択**]ダイアログ ボックスが表示されます。
- ドロップダウン リストからインストール ウィザードで使用する言語を選択し、 [OK]を クリックします。

プログレス バーが表 示されます。 初期 プロセスが完了すると、 **ようこそ**]ページが表示されます。

- 5. 次へ]をクリックします。使用許諾契約]ページが表示されます。
- 6. **同意する**]チェックボックスをオンにして、 次へ]をクリックします。 インストール先 フォルダ]ページが表示されます。
- 入力情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、適切に変更します。
 続いて、 (次へ)をクリックします。 [インストール準備完了]ページが表示されます。
- 8. [インストール]をクリックします。プログレスバーが表示されます。
- 9. インストールが完了したら、院了]ボタンをクリックしてインストールを終了します。

Arcserve RHA のアンインストール

Arcserve RHA コンポーネントのアンインストールは、オペレーティング システムのコント ロールパネルにある プログラムの追加と削除]から標準的な方法で簡単に実行 できます。それぞれの Arcserve RHA コンポーネントを別個にアンインストールする必要があります。

- アンインストールでは、Arcserve RHA マネージャによって設定された、ユーザが 生成した.xmc シナリオファイルを保存するためのデフォルトのディレクトリは削 除されません。ディレクトリは以下のとおりです。
 - CA_INSTALL_LOG
 - INSTALLDIR\ws_co
 - INSTALLDIR\ws_root
 - INSTALLDIR\reports
 - INSTALLDIR\ws_events
 - INSTALLDIR\ws_help
 - INSTALLDIR\ws_scenarios
 - INSTALLDIR\ws_template
- Arcserve RHA エンジンのアンインストール方法はさらに2通りあります。以前の バージョンのエンジンをアンインストールするには、以下の方法が最適です。
 - リモート インストーラを使用 Setup.exe ファイルを使用
- 以下のフォルダは、Arcserve RHA エンジンのアンインストール後に削除されません。
 - INSTALLDIR
 - INSTALLDIR\vm

Microsoft Failover Cluster 用 Arcserve RHA のアンイン ストール

Arcserve RHA をアンインストールしても、設定を保存してある Arcserve RHA ディスクリソースおよびリソースタイプは削除されません。

完全にアンインストールする方法

- 1. ストレージから Arcserve RHA ディスクリソースを削除します。
- 2. クラスタの実行中に、リソースタイプを削除するクラスタコマンドを実行します。

cluster.exe restype "Arcserve Disk" /delete

リソースタイプの削除は、Microsoft Failover Cluster マネージャーから実行することもできます。

CAVSSSoftProv エラーのトラブルシューティング

症状:

RHA エンジンのインストールまたはアンインストール中に以下のエラーが発生する。

Error 27508. Error installing COM+ application CAVSSSoftProv

解決策:

以下の手順に従います。

- 1. オペレーティング システムを再起動します。
- 2. Arcserve RHA Engine サービスを停止します。
- 3. エンジンのルート パスから install_engine.bat を実行します。
- 4. エンジンのルート パスから uninstall_engine.bat を実行します。
- 5. プログラムの追加/削除からエンジンを削除します。
- 6.「COM+ アプリケーション」および「CAVSSSoftProv アプリケーション」を削除します。
- 7. Arcserve RHA エンジンを再インストールします。

RHA エンジン検証の問題のトラブルシューティング

症状:

Windows 2008 Workgroup サーバで、サーバのログイン ユーザが管理者 グループの ローカル アカウント である場合、検証失敗 エラーになります。エラーは、RHA エンジ ンの検証時に発生します。

解決策:

この問題を解決するには、UACを無効にするか、またはレジストリエントリ 「LocalAccountTokenFilterPolicy」を1に設定します。

詳細については、microsoft.com 上の技術情報 <u>951016</u>を参照してください。

リモート インストーラ使用時の検証エラーのトラブル シューティング

症状:

リモート インストーラを使用した、Arcserve RHA エンジンの展開時に、検証失敗エラーが発生します。

解決策:

ー 部のセットアップでは、リモート WMI リクエストは無効で、検証失敗エラーが発生します。このエラーを解決するには、以下の手順に従います。

リモート WMI リクエストの有効化

- 1. ターゲット サーバで、 管理ツール]- ロンピュータの管理]に移動しま す。
- 2. [サービスとアプリケーション]を展開します。
- 3. [WMI コントロール]プロパティを右 クリックします。
- 4. [セキュリティ]タブを選択して、「セキュリティ]をクリックします。
- 5. モニタリング ユーザ(必要な場合)を追加してから、WMI データをリク エストするユーザまたはグループの [Jモート有効化]をクリックします。
- マシンまたは "Windows Management Instrumentation" サービスを再 起動します。

必要な場合は、以下の手順を実行して、ファイアウォール経由で WMI を許可します。

Windows ファイアウォール経由での WMI の許可

すべてのユーザ(管理者以外を含め)は、ローカルコンピュータ上のWMIデー タを問い合わせることができます。リモートサーバ上のWMIデータの読み取り については、管理コンピュータからターゲットサーバに接続を確立します。ター ゲットサーバが Windows XP および Windows 2003 付属の Windows ファイア ウォール(インターネット接続ファイアウォール)を実行している場合は、リモート WMI リクエストの通過を許可するようにファイアウォールに伝達する必要があり ます。ターゲットコンピュータが Windows ファイアウォールを実行している場合 は、そのターゲットコンピュータ上で以下のコマンドを実行します。

netsh firewall set service RemoteAdmin enable

「アクセスが拒否されました」というエラーが依然表示される場合は、ユーザまたは グループに DCOM リモート 起動およびアクティベーション許可を付与します。

以下の手順に従います。

- 1. [スタート]- 名前を指定して実行]をクリックし、「DCOMCNFG」と入 カします。 DK]をクリックします。
- ロンポーネント サービス]ダイアログ ボックスで、 ロンポーネント サービス]、 ロンピュータ]を展開します。 マイ コンピュータ]を右 クリックしてから、 プロパティ]をクリックします。
- 3. [マイコンピューターのプロパティ]ダイアログボックスが開きます。
- 4. [COM セキュリティ]タブをクリックします。
- 5. 起動とアクティブ化のアクセス許可]セクションから、 制限の編集] をクリックします。
- 6. 起動とアクティブ化のアクセス許可]ダイアログボックスが表示されます。
- 7. ユーザの名前またはグループが表示されない場合は、 グループ名ま たはユーザー名]リストにユーザ名またはグループ名を追加します。
- 8. 起動アクセス許可]ダイアログボックスから、 グループ名またはユー ザー名]ボックス内のユーザおよびグループを選択します。
- 9. 許可]列、ユーザ/グループのアクセス許可]から、 Dモートからの 起動]を選択し、 Dモートからのアクティブ化]を選択します。 DK]を クリックします。

第4章: IIS 7.0/7.5 における IIS 6.0 管理互換のインストール

このセクションでは、IIS 6.0 Management Compatibility for IIS 7.0/7.5 のインストール に必要な手順を説明します。IIS 7.0/7.5 の HA シナリオを作成しない場合はこの 手順が必須です。

注: IIS 7.0/7.5 用の HA シナリオを作成する場合は、この処理をマスタホストとレプリカホストの両方で実行する必要があります。

IIS 6.0 管理互換をインストールする方法

1. マスタまたはレプリカ ホストで、サーバ マネージャを開き、 役割]オプションを選択 します。次に、 役割の追加]ボタンをクリックします。

役割の追加ウィザード]の最初のページが表示されます。

2. 次へ]をクリックします。 サーバの役割の選択]ページが表示されます。

Add Roles Wizard		×		
Select Server Roles				
Before You Begin Server Roles Web Server (IIS) Role Services Confirmation Progress Results	Select one or more roles to install on this server. Boes: Active Directory Certificate Services Active Directory Pederation Services Active Directory Pidperation Services Active Directory Rights Management Services Application Service Application Service Directory Rights Management Services Application Service DHOP Server DNS Server Pax Services (Installed) Hyper-V Network Policy and Access Services DTerminal Services UDDI Services V WoB Server (ITS) Windows Deployment Services	Description: Web Server (IIS) provides a reliable, manageable, and scalable Web application infrastructure.		

3. [Web サーバ (IIS)]チェック ボックスをオンにし、 次 へ]をクリックします。

Web サーバ(IIS) に必要な機能を追加するかどうか確認するポップアップメッセージが表示されます。

4. 必要な機能を追加]をクリックします。

[サーバの役割の選択]ページが表示されます。

5. 次へ]をクリックします。 [Web サーバ (IIS)]ページが表示されます。

Add Roles Wizard	×
Web Server (IIS))
Before You Begin Server Roles Web Server (IIS) Role Services Confirmation Progress Results	Introduction to Web Server (IIS) Web servers are computers that have specific software that allows them to accept requests from dient computers and return responses to those requests. Web servers let you share information over the Internet, or through interates and extrantes. The Web Server role indudes Internet Information Services (IIS) 7.0, a unifed Web platform that integrates IIS 7.0, ASP.NET, and Windows Communication Foundation. IIS 7.0 also features enhanced security, simplified diagnostics, and delegated administration. Things to Note Windows System Resource Manager (WSRM) can help ensure equitable servicing of Web server traffic especially when there are multiple roles on this computer. The default installation for the Web Server (IIS) role includes the installation of role services that enable you to serve static content, make minor customizations (such as default documents and HTTP errors), monitor and log server activity, and configure static content compression. Additional Information Overview of Web Server (IIS) Overview of Web Server (IIS) Overview of Webs Overview of WSBM Overview of WSBM<!--</th-->
	<pre></pre>

6. 次へ]をクリックします。

役割サービスの選択]ページが表示されます。

Add Roles Wizard		×
Select Role Servi	ces	
Before You Begin Server Roles Web Server (IIS) Role Services Confirmation Progress Results	Select the role services to install for Web Server (IIS): Role services: Digest Authentication Clert Certificate Mapping Authentication IS Cleint Certificate Mapping Authentication Request Filtering P and Domain Restrictions Performance Static Content Compression Dynamic Content Compression Dynamic Content Compression Dynamic Content Compression IS Management Scripts and Tools IS Management Service Static Softwaspenent Console IS Management Console IS 6 Metabase Compatibility Statis 6 Metabase Compatibility Statis 6 Management Console FTP Publishing Service FTP Server FTP Server FTP Management Console Console Console Console Console Statis 6 Management Console Consol	Description: IIS 6 Management Compatibility provides forward compatibility for your applications and scripts that use the two IIS APIs, Admin Base Object (ABO) and Active Directory Service Interface (ADSI). You can use existing IIS 6 scripts to manage the IIS 7 Web server.

- 7. 役割サービス]リストで、 [IS 6 管理互換] チェック ボックスをオンにします。
- 8. 次へ]をクリックし、ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。

第5章: SSL 自己署名証明書のインストール

このセクションでは、SSL 自己署名証明書をインストールするために必要な手順に ついて説明します。この手順が必要となるのは、リモートマシンからコントロール サービスに接続して概要ページを開く際の通信を、自己署名証明書を使用して 保護する場合です。

SSL自己署名証明書のインストール

1. リモート マシンで、Internet Explorer を起動します。 アドレス]ダイアログ ボックス で、コントロール サービスのホスト名とポート番号を次のように入力します。http:// ホスト名:ポート番号/start_page.aspx

注: ここでは、コントロール サービスの IP アドレスを指定 することはできません。

証明書を表示するかどうかを確認するセキュリティの警告が表示されます。

2. 証明書の表示]ボタンをクリックします。

証明書]ダイアログボックスが表示されます。

Certificate ?		
General Details Certification Path	_ 1	
Certificate Information		
This CA Root certificate is not trusted. To enable trust, install this certificate in the Trusted Root Certification Authorities store.		
Issued to: QA95-SQL		
Issued by: QA95-SQL		
Valid from 2/5/2008 to 2/5/2009		
	t	
ОК		

3. 証明書をローカルにインストールするには、 証明書のインストール]ボタンをクリックします。

証明書のインポートウィザードが表示されます。



4. 次へ]をクリックします。 証明書ストア]ページが表示されます。

Certificate Import Wizard
Certificate Store
Certificate stores are system areas where certificates are kept.
Windows can automatically select a certificate store, or you can specify a location for Automatically select the certificate store based on the type of certificate Place all certificates in the following store Certificate store: Browse
< <u>B</u> ack <u>N</u> ext > Cancel

5. 証明書をすべて次のストアに展開する]オプションをオンにして、 診照]ボタンを クリックします。

証明書ストアの選択]ダイアログボックスが表示されます。



信頼できるルート証明機関]ストアを選択し、[DK]をクリックします。
 証明書のインポートウィザード-完了]ページが表示されます。

Certificate Import Wizard	×
	Completing the Certificate Import Wizard
	You have successfully completed the Certificate Import wizard.
	You have specified the following settings:
	Certificate Store Selected by User Trusted Root Certific Content Certificate
	< <u>B</u> ack Finish Cancel

- 7. 終了]ボタンをクリックして証明書のインポートを終了します。
 証明書のインストールを確認するように求める確認メッセージが表示されます。
- 8. 【はい〕をクリックします。インポートが正常に行われたことを通知するメッセージが 表示されます。



 OK]をクリックし、メッセージを閉じます。次に、 証明書]ダイアログ ボックスで OK]をクリックして閉じます。

これで、コントロールサービスのマシンに接続して、概要ページを開くことができるようになりました。

第6章:期限切れ SSL 証明書の更新

このセクションでは、認可または自己署名され、期限が切れた SSL 証明書を更新するための手順について説明します。この手順は、すでに SSL 証明書を使用して通信を保護しており、現在の証明書が期限切れになったため新しい証明書をインストールする場合に必要です。

注: 更新プロセス中にコントロールサービスを停止する必要はありません。

期限切れ SSL 証明書の更新方法

- 1. 新しい証明書を入手して、コントロールサービスが実行されているマシンにインストールします。
- 2. 古い証明書のバインドを削除するには、以下のコマンドを実行します。

httpcfg.exe delete ssl -i 0.0.0.0:{CS SSL Port Number}

注:「CS SSL Port Number」パラメータは、コントロールサービスのインストール中に 入力したポート番号です。この値は、ws_man.exe.config ファイルの ws_port 値の 下に存在します。

このコマンドの結果、エラーが返されることはありません。メッセージは以下で終了します。

...completed with 0

3. 新しい証明書をコントロールサービス SSL ポートにバインドするには、以下のコマンドを実行します。

httpcfg.exe set ssl -i 0.0.0.0:{CS SSL Port Number} -h {New Certificate SslHash}

Notes:

- ◆ httpcfg.exe パラメータは、Windows Server の標準ユーティリティで、コント ロールサービスのインストールディレクトリに存在します。
- ◆ 新しい証明書のSSIHash パラメータは、認証ダイアログボックスにある詳細 タブの拇印値の下にあります。



拇印値は、文字間にスペースを挿入せずに入力してください(例: 8f40f9904372ccbd3706d72ed25d)。

このコマンドの結果、エラーが返されることはありません。メッセージは以下で終了します。

...completed with 0.

SSL証明書が更新されました。

第7章: 64 ビット OS で 32 ビット Oracle をサポートする ために必要な Oracle クライアントのインストール

64 ビット OS で 32 ビット Oracle を使用する場合、Oracle シナリオを正常に実行するため、Oracle マシンに Oracle Client 11.x 以上をインストールする必要があります。

Oracle Client 11.x をインストールする方法

1. Oracle Client 11.x を次の場所からダウンロードします。

http://www.oracle.com/technology/software/tech/oci/instantclient/htdocs/winx64s-oft.html

2. Instant Client Package - Basic をエンジンの現在のインストールディレクトリ、または OSのデフォルト パスの1つにインストールします。
キーワード

Α

Arcserve RHA のアンインストール 57

ArcserveRHA

Arcserve RHA コンポーネント、概要 10 CA ARCServe RHA、アップグレード 33 CA ARCserve RHA、アンインストール 57 CA ARCserve RHA、インストール 25 CA ARCserve RHA、展開 16

IIS 6.0 Management Compatibility for IIS 7.0 のインストール 63 IIS Server HA IIS 7.0 における IIS 6.0 管理互換のインストール 63

0

Oracle Server HA

64 ビット OS で 32 ビット Oracle をサポート するために必要な Oracle クライアントの インストール 71 ワークグループ 25

Ρ

PowerShell インストール 56 定義 14 配置 16 要件 23

S

SSL 65 コントロールサービスのための設定 36 自己署名証明書のインストール 65 SSL の設定 コントロールサービスのための 36 SSL 自己署名証明書のインストール 57 SSL:概要ページを開く、使用 55

W

WANSync、アップグレード 33

あ

アップグレード アップグレード、Arcserve RHA 33 インストール 33 エンジン、Setup.exe ファイルを使用した 33 エンジン、リモート インストーラを使用した 50 コントロール サービス 33

い

インストール
64 ビット OS で 32 ビット Oracle をサポート するために必要な Oracle クライアント 71
PowerShell 56
インストール、Arcserve RHA 25
エンジン 45
エンジン、リモート インストーラを使用した 50
エンジン、新規シナリオ ウィザードを使用 48
コントロール サービス 36
デフォルト ディレクトリ 36
マネージャ 55

リモート インスト ーラを使 用した 50 管 理 センタ 55

え

エンジン

Setup.exe ファイルを使用したアップグレード 33 インストール 45 シナリオ作成ウィザードを使用したインストール 48 リモート インストーラを使用したアップグレード 50 リモート インストーラを使用したアンインストール 50 リモート インストーラを使用したインストール 50 削除 33 定義 12 配置 16 エンジンの削除 33

エンジンをインストールするためのホストの選択 50

<

クラスタ

リモート インストーラを使用したエンジンのインストール 50

L

コントロール サービス

CLIを使用したインストール 43 SSLの構成 / SSL環境設定 36 アップグレード 33 定義 11 配置 16 標準処理用のインストール 36 役割切り替え用の2つのインストール 41 要件 20

L

シナリオ、インストール ディレクトリ 33 シナリオ作成 ウィザード、使用したエンジンのインストール 48

ま

マネージャ インストール 55 定義 13

り

リモート インストーラ 50

れ

レポート センター、概要 13

ワークグループ

Oracle Server 25

椢

わ

概要ページ 13

筁

管理センタ インストール 55 定義 13 配置 16 要件 22 管理センタ: 概要ページ 13 管理センター: マネージャ 13 管理センター: レポート センタ 13

膊

自己署名証明書 インストール 65 選択 36

寵

展開、Arcserve RHA コンポーネント 16

褡

要件

PowerShell 23 コントロールサービス 20 管理センタ 22